

【課題番号】 4-2303

【研究課題名】 生物多様性保全・気候変動対策・地域振興を最適化させる自然公園設計：  
北海道東部・根釧地方における学際的研究と実践

【研究期間】 2023 年度（令和 5 年度）～2025 年度（令和 7 年度）

【研究代表者（所属機関）】 仲岡雅裕（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター）

#### 研究の全体概要

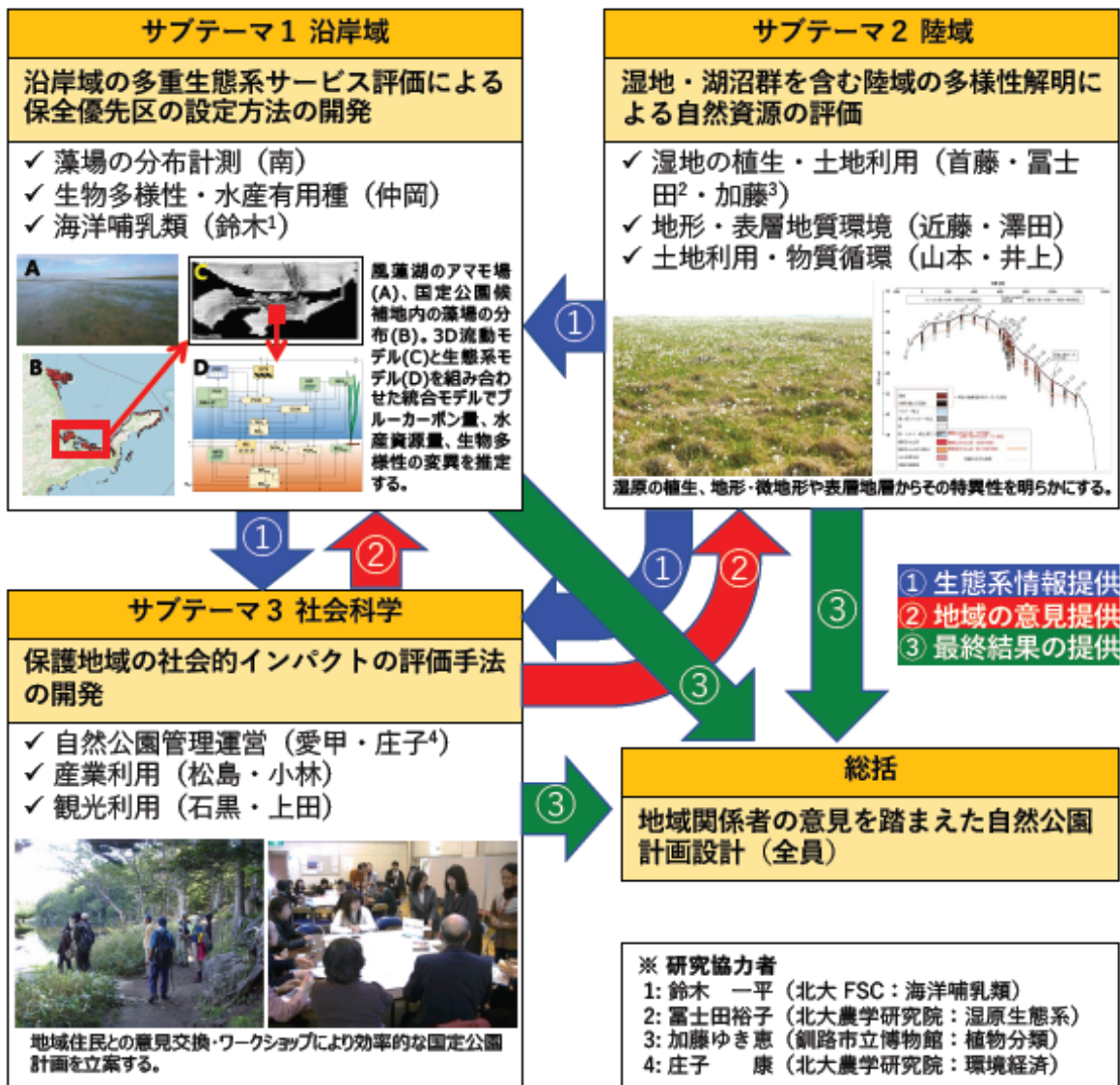
我が国は生物多様性・生態系の損失を防ぎ回復させるため 2030 年までに陸と海の 30%以上を保全する「30by30 目標」に取り組んでいる。その達成のため、自然公園面積の拡大や民有地活用による保全管理(OECM)を目指している。

北海道東部の野付半島から風蓮湖、根室半島に至る地域は、湿原、干潟、潟湖や小湖沼群、藻場などの多様な生態系が連続する傑出した景観をもち、亜寒帯気候の南限として我が国ではこの地域のみ分布する動植物種が多数生息する。特に着目される点として、(1)風蓮湖と野付湾には我が国で最大級のアマモ場が残存し、ブルーカーボン生態系保全による気候変動緩和策にも貢献する、(2)根室半島の歯舞湿原は国内で唯一確認されたブランケット型湿原として保全の価値が非常に高いこと、が挙げられる。この貴重性・希少性が評価され、「国立・国定公園総点検事業フォローアップ」事業で、新規指定候補地 4 箇所の一つに選定され、国定公園指定に向け地元の気運も高まっている。一方で、国定公園化にむけ、従来からある一次産業による土地利用・海域利用との対立に加え、近年では気候変動対策として進められている風力発電所や太陽光発電所の建設と生物多様性保全の相克も問題になっている。

そこで本課題は、根室半島を中心とした根釧地域の沿岸域の藻場と陸域の湿地を対象に、自然資源と生態系サービスの多重的な評価を行い、その知見を踏まえた重要生態系の保護地域指定による社会・景観・観光・経済的側面からの評価手法と持続可能な地域発展に寄与する枠組みの開発を行う。これにより、生態系ネットワークを考慮した広域の生物多様性保全を推進するとともに、地域社会ならびに産業とも持続的に調和しかつ地域振興にも寄与する、新しい自然公園の設計のあり方を探ることを、本研究の目的とする。

生物多様性保全・気候変動対策・地域振興を最適化させる自然公園設計：  
北海道東部・根釧地域における学際的研究と実践（代表機関：北海道大学）

背景	30by30目標・OECMの有効化・保護地域間の効果的なネットワーク化
目的	① 生態系ネットワークを考慮した広域の生物多様性保全の推進 ② 地域社会・産業と持続的に調和し地域振興にも寄与する自然公園をデザイン
対象	根釧地域（国定公園新規指定候補地）の沿岸域の藻場と陸域の湿地



目標

- ・ 藻場や湿地の生物多様性、生態系機能、生態系サービスを空間的に可視化
- ・ 地域関係者の認識や意向を踏まえた保全優先順位の評価手法を確立
- ・ 沿岸域と陸域の公園指定地の選定計画への活用と提言
- ・ 地域振興と持続的な産業発展への活用と提言